1975.07.22
一乗寺にて.
安溪遊地

西表島西部における60年前のくらしの復元への試み

―― 山崎山廃村群調査をまとめるにあたって

はじめに

- 特別経済区のある分野に偏りの出たものを大くくりにまとめたい
- 遺物に関しては、廃村者たちをかくし、遺構・史料に関しては、対象を同等に扱う
- 石垣貨の動向について.

―― その立場について

いくつもの村を呑み込んできた西表島の歴史

- 炭鉱の盛衰がくらしの変化に与えた影響
- 炭坑の歴史
- 炭坑が、西表西部の暮しに与えた影響
- 戦中戦後のくらしの変化
- 戦争直後の繁栄(人間が溢れていた)
- 戦争のころの暮しぶり

鹿川廃村以後の西表でのくらしの変遷

- 昔話にみられる人口の減少(原因)
- 近年の過疎化の原因?
- 廃村の原因

種事が今も、極めて重要な役割をはたしている

- 祭り生きている事.
- 村人をつなぐ力をもつ「ユイ」「ユイ」が働く
- ウカン・カーの果している役割は重大であった.
- 村内でのウガンの移転について

人口の変動と村の反応

- 文献による崎山三村の人口の変動
- 地籍図で、田畑の所有関係を調べる.
- 人口の変動に対する村落共同体の反応
- ☆廃村になるということは、当の人々にとって何にとってどういうことだったか
- 新村が建つということは、人々にとってどういうことだったのか.
- 西表人の鹿川観 崎山観 etc.
- 村についた名前の系譜
- 村(同志)どのようにまとまっているかを調べる
- 人口最盛期時代の人間関係、(結合紐帯)
- 村の盛衰と人間関係の変遷
- 村の中の人と人とのかかわりあい方の変化 工夫

人の織りなす村の動態

村はどのようにして一人立ちしてきたか?

村はどの程度まで自己完結的であったか

- 村は何を目的として生まれたのか
- 村の事外に何を獲ってくるか(田代栄定資料を参考にする)
- 村の中で、どの位自給できたか
- 他島との交流を遺物・遺構から推定する
- 聞きこみから、他島との交流を、うかがいたい.
- 新村建り、婚の型 建り方は、他村を人まねしていった.

村の生理学

- 農産物の当時の収量を推定する
- 村ごとの、畑作物の生産量の推定
- 田の広さと収穫量の推定(田一筆ごと)
- 村ごとの、米の生産量を推定する

村での生産量と消費量をかぶせてみる

- 人口最盛期時代どれだけの人数を養える土地であったのか
- 現在、自給するとどれだけの人数を養える土地であるか
- 廃村は何人の人を養えるか(時代ごとに)

わくづける

支える

村々の形態学

- 新村つくり以前の崎山半島(ハ日山半島)が「散在」していたこと.
- ピサドゥ、マイバリ、ツビ、ツ、人口最盛期の比較的人口密集かあったと推定される
- 鹿川は、大津波後、上の方に移る要因になった村.

村落形態と遺構

- 個別の地名(地名の一般名称からのつくり方)
- 沢山の地名を聞きとる(どこにどやってたか)
- 廃村の地名は、時とともに、どんどん忘れられていっている.
- ☆何かが出来たときに必ずついている地名だけが廃村の現金記憶として残っている.

地名とその分析

- 他村(糸満、祖納、干立)の時、出国(移動)地図を明確にしよう
- 村落を構成する村の要素は何か?(クボ、ハー、ヌ)
- 近代に入って入ってきた新しい村落の様式要素(公民館、学校等)
- 村ごとの交流 ヒとの関係

西表における村落のなりたちオ

村での くらしの物質的背景

- 遺構に基いて崎山三村を復元
- 崎山三村それぞれの遺構図をつくる
- 地籍図を参考に遺構を読み解く.
- 戦后、石垣、石積は写真で示せる.
- ☆遺構に関する多くの疑問を当の人は見ないで自分は

遺構の解明

- 遺物の構成からみたその生活様式
- 遺物の構成から、その品位、程度を推定する
- 墓の副葬品とフロアの遺物との関係は年代的な変化がみられないように.

村人をとりまいてきた自然環境

環境と自然 村人とのやりとり

- 島の人のとらえた自然
- 西表西部の一年間の生活暦
- 天候・環境方に関する島人の知恵はつい

(食物としての) 生物の利用

- 遺物の貝と当時の生業・環境・食物との関係をさぐる
- 遺物の貝の骨から生産状況の変化を推測する
- 遺物の貝の殻の同定
- 貝殻集 ―― どこで、どんな貝が獲れるか
- 遺物としての交流
- 縄張りの領域の変遷
- 他の種の方
- 昔、ワニやヒトコブラクダ(獲)
- ☆野生植物の利用.

Hunting と gathering

- 家畜の品種とその変遷
- ☆ターム、ヤギ、ウシ、今ではみんなこなくなってしまった.
- 人頭税時代 山奥で牛を飼っていたらしい
- 牛馬増殖・畜産の変遷(ヤギ飼がみんなこなくなった)

動植物の、どの種、どの品種を選んで利用してきているか

村人をとりまいてきた人工的環境と

- 島のくらしの復生面は?
- 漁具・漁撈の技術
- 病気や怪我を作ったり村びとは知っている
- マラリヤの発生状況をあとづける
- 祖納・干潟・祖納を舞台に、廃村・田畑の位置を復元する
- 祖納・祖納の住居・現況
- 鹿川の墓群(住居)の復元
- 建築材料時代 自然が豊富であった
- 山から木を伐り出してくる仕方について
- 戦前、祖取で瓦を焼いたこと

村人との関係 物質文化と遺物

- 衣類の生産と消費・移出
- かいこを育てた ―― 衣料作りの作業

植物を人間の活動のあとの指標として扱ってみる

- 田・畑・住居址をはじめ植生が異る.
- 植生の違いから人間がどう利用してきたか推定できる.
- 鹿川に残っていた接ぎ植物・分布状況について.
- ☆植物遺物とヨガ、ヤリ、文間、ヤ遺物でどうなるか考える.
- 植物群落の自然植生への回復のしかたを推測する.
- 植物が写真で示せる.

道具とくらしのかかわり

- 生産に必要な道具類の推定
- 運搬法の推定
- 分業に必要な生活様式推定
- 鹿川では木造品は皆目みあたらなかった.
- 廃って消えた道具類の推定
- 廃って消えていった生活様式の推定に関する

遺物の残らない方面でも当時を憶測することはできる

道具と暮しの切り離し難い関係

- 村で一軒あたりの持っている道具を記載する
- 祖納での一軒の家がもっている道具をあらかたに書いた.
- ハレ日のために、食器を10組余分にもってある(祖納)
- ある田小屋に残されていた道具を列挙した.
- 島で暮すには、どのくらいの道具が要るか.
- ☆村でくらしを作るのに充分な道具類とは何か 何が必要だろうか.
- ☆シマでくらしを作るのに最低何が必要だろうか.

遺物の取扱いについて

- 人工遺物の採集 表面採集だけに限った.
- 鹿川の遺物としてクバ、ヤシ、ヤシの葉、ビン、人頭、植物等
- 他の遺物の利用
- 遺物(貝殻)は写真で示せる

人工遺物と暮しの関係

人口遺物はものがたる

- ☆人工遺物の用途の推定.
- 掘り鍬、石臼、粗の使い方は?
- 人工遺物は羽と全部家畜であった.
- 人工遺物の時代別分類
- 墓は、比較的新しい 発掘完了つきとめるのは難しい.

調査自体を振り返る

- 盗掘のいちばんいいことについて
- ガードパーク内の写真のない「解説」が西表きすいふんえんにはある
- 石碑の銘文を個別にするような定人の存在について
- きき込みの方法とその対象について
- 非常に信頼のおける人物からのインフォーマントにいくつか出会った.
- 現代ではそこでは少しいなれ、年老いた人の内容には一定の限界がある.

謝辞